

平成24年度環境活動レポート

活動期間:平成24年4月1日～平成25年3月31日

平成25年5月14日作成

株式会社池田商店

環境方針

[理 念]

当社は、現代社会において地球環境の保全、及び低炭素社会の構築が最重要課題であること、またそれらの構築に重要な役割を担っている企業であることを認識し、産業廃棄物の中間処分業を通して廃棄物の再生使用と資源化を促進すると共に産業廃棄物の最終処分量の削減を図ることによって、環境保全に努め、循環型社会の形成に貢献します。

[方 針]

環境保全に貢献することが、当社の事業活動の根幹を成す重要課題でありますので、日頃の事業活動の中で環境保全に配慮して以下の活動を行います。

- 1) コンクリート製建造物の解体に伴い発生する廃棄物を処理し、路盤材等に再生する事業活動に於いて、環境に与える影響を的確に把握し、技術的、経済的に可能な範囲で環境目標を定め、管理プログラムを設定し、これを実行すると共に、定期的見直しを行い、環境汚染防止及び環境保全活動の継続的改善とその向上を図ります。
- 2) 環境保全に関する法規制を遵守して環境保全に取り組めます。
- 3) 保全活動を推進するための環境管理組織を整備し、活動目標を定め全員参加で推進します。
- 4) 事業活動の中で、特に以下の項目について優先的に保全活動を推進します。
 - ①. 産業廃棄物最終処分ゼロ活動
受け入れた産業廃棄物は、分別を密に行い、100%リサイクルを目指すと共に適正な廃棄処理を行います。
 - ②. 節水活動
作業場における発塵防止散水を行って地域社会への影響を抑えます。一方、節水に努めて散水を行います。
 - ③. 省エネルギー活動
 - a) 事業設備及び事務所における省電力に努めます。
 - b) 輸送及び作業用車両のエコドライブと保守点検の励行に努め、温暖化ガスの排出削減に努めると共に作業の安全確保に努めます。
 - ④. 環境保全活動
 - a) 事業設備から発生する廃油は、適正に処理します
 - b) 自社から排出するゴミは減量化及びリサイクルを図ります
 - c) グリーン購入を積極的に図ります
- 5) 環境マネジメントシステムの維持と継続的改善に努めます。
- 6) 作業場周辺の整備、清掃を推進すると共に周辺地域とコミュニケーションを図り、地域社会に貢献します。
- 7) 環境教育を実施し全社員が環境方針の遂行に当たり環境に関する意識向上を図ると共に、取引先へも環境基本方針を周知し、理解と協力を要請します。

平成20年7月1日制定
平成23年6月1日改訂

株式会社池田商店
代表取締役 川嶋 哲郎

2 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 池田商店

代表取締役 川嶋 哲郎

2) 所在地

○本社(登記上): 〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目4番1号A-10階

○本社: 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町2446-13

○横浜工場: 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町2446外5筆

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 事業部長 三本 鋭植

連絡先 事務局 寺田 淳利

電話 045-924-6025 FAX 045-924-6026

4) 事業の規模

- a) 法人設立年月日 昭和49年10月1日
- b) 資本金 2,400万円
- c) 社員数 25人 (平成25年3月末現在)
- d) 売上高 8億1千万円(平成24年度)
- e) 工場面積 8,217㎡

5) 会社の沿革

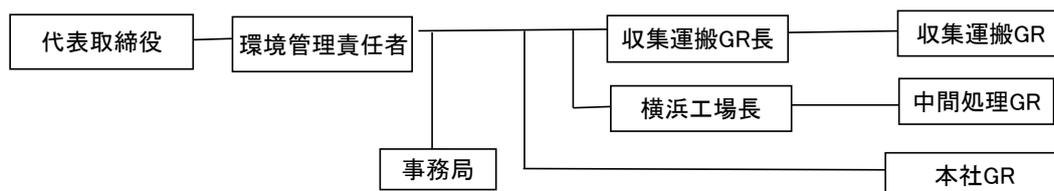
- a) 平成20年4月株式会社池田商店を株式会社タケエイが買収し、100%子会社として傘下に収めた。
会社名はそのまま池田商店とし、商号を株式会社池田商店とした。
- b) 合併を円滑に立ち上げるために、旧株式会社池田商店本社を本社事務所としていたが、業務効率のために、平成25年2月本社事務所(連絡先)を横浜工場付近に移設した。(住所は連絡先参照)

3 認証登録範囲

- 1) 対象事業所: 本社、横浜工場
- 2) 事業の活動:
産業廃棄物の収集運搬及び中間処分、碎石の販売

4 EA21 推進体制

1) 推進体制



2)責任と権限

| 職務 | 責任及び権限 |
|---------|--|
| 代表取締役 | <ul style="list-style-type: none"> 環境方針を策定する。 EA21の実行に必要な資源を用意する。 環境管理責任者を任命する。 EA21の全体的な取り組み状況を評価し、見直し、必要な指示を行う |
| 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムを構築し維持する。 環境経営システムの構築、運用状況を代表に報告する。 環境活動レポートを取りまとめる。 環境活動に関し代表に上申する。 |
| 収集運搬GR長 | 収集運搬に関する現場指揮及び実績管理 <ul style="list-style-type: none"> 配車指示、収集運搬作業およびEA21活動現場責任者 |
| 横浜工場長 | 中間処理に関する現場指揮及び実績管理 <ul style="list-style-type: none"> プラント運転、製造、保管およびEA21活動現場責任者 |
| 事務局 | 環境管理責任者を補佐し、環境経営に関する実務の中核業務の推進 |

5 産業廃棄物の収集運搬及び中間処分量の許可の内容

1)産業廃棄物収集運搬業許可番号一覧(積替え保管除く)

●:石綿含有産業廃棄物を含まない ○:石綿含有産業廃棄物を含む

| 都道府県・市名 | 業区分 | 許可番号 | 許可の年月日 | 許可の有効年月日 | 燃 え 殻 | 汚 泥 | 廃 プ ラ ス チ ク 類 | 紙 く ず | 木 く ず | 鐵 く ず | 金 属 く ず | ガ ラ ス く ず 及 び 陶 磁 器 く ず | 鉋 さい | が れ き 類 | ば い じ ん |
|---------|--------------|---------------|------------|-------------|-------------|--------|---------------------------------|-------------|-------------|-------------|------------------|--|---------|------------------|------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 神奈川県 | 収集運搬 | 第01403020263号 | 平成23年8月13日 | 平成28年8月12日 | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ○ | | |
| 横浜市 | 処分 (中間処理) | 第06620020263号 | 平成24年1月1日 | 平成28年12月31日 | | | | | | | | ● | ● | ● | |
| 千葉県 | 収集運搬 | 第01200020263号 | 平成22年6月29日 | 平成27年6月28日 | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 埼玉県 | 収集運搬 | 第01100020263号 | 平成22年6月18日 | 平成27年6月17日 | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 茨城県 | 収集運搬 | 第00801020263号 | 平成22年8月25日 | 平成27年8月24日 | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 群馬県 | 収集運搬 | 第01000020263号 | 平成22年8月19日 | 平成27年8月18日 | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 栃木県 | 収集運搬 | 第00900020263号 | 平成22年5月31日 | 平成27年5月30日 | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 山梨県 | 収集運搬 | 第01900020263号 | 平成25年2月20日 | 平成30年2月19日 | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | |
| 長野県 | 収集運搬 | 第2009020263号 | 平成25年2月14日 | 平成30年2月13日 | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | |

2)産業廃棄物中間処分量

- ①横浜市
- 第56-20-020263号 許可:平成24年1月1日 有効:平成28年12月31日
 - 破砕施設 移動式1基(297t/日)、移動式1基(675t/日)
 - 産業廃棄物の種類 ガラスくず及び陶磁器くず、鉋さい、がれき類
(特別管理廃棄物であるものを除く)
 - 産業廃棄物の保管量 7,089㎡以内 高さ3.75m以下

3)施設等の状況 (H25年4月1日現在)

| | |
|----------|---------------|
| ダンプカー | 11台 |
| 破砕施設 | 移動式1基(297t/日) |
| 破砕施設 | 移動式1基(675t/日) |
| ユンボ | 5台 |
| ミニユンボ | 1台 |
| ホイールローダー | 2台 |

6 処理実績

| | | |
|-------------|--------|-------------|
| 産業廃棄物収集運搬実績 | 平成24年度 | 47,182 (t) |
| 産業廃棄物処分実績 | 平成24年度 | 141,471 (t) |

7 処理フロー図

■ 収集運搬



■ 保有車輛

| | |
|---------|-----|
| ・10tダンプ | 10台 |
| ・4tダンプ | 1台 |

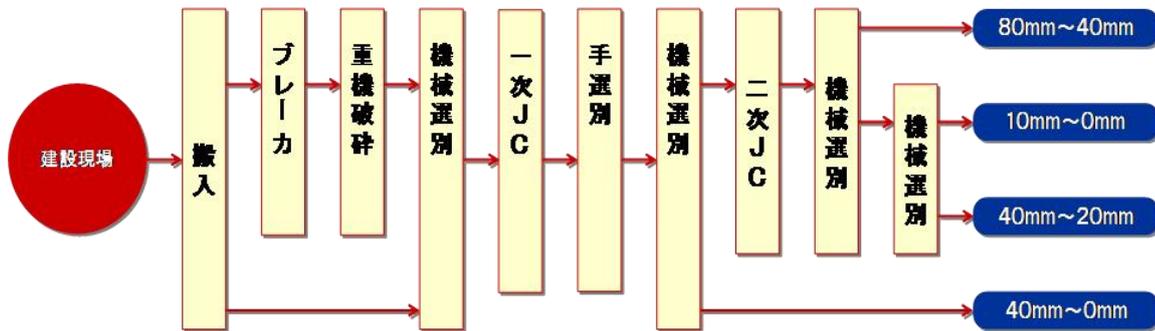


ダンプのあおりが改造されており、杭頭・橋脚の受入が可能

横浜工場内での杭頭、橋脚等の受入状況



■ 再資源化フロー



■ 再生碎石(製品)のラインアップ

再生碎石(製品)の種類

| | | |
|---|---|---|
|  RC-80-40 |  RC-40-20 | <p>同業者では殆ど生産されていない。</p> <p>左記の製品製造は特殊な技術が必要である。</p> |
|  RC-40 |  RM-40 | |

再生碎石の種類が豊富であり、お客様のニーズに対応が可能。

8 環境目標とその実績

8.1 第2次中期環境目標

| 項目 | 単位 | 基準年度 (22年度) | 平成23年度 目標値 | 平成24年度 目標値 | 平成25年度 目標値 |
|-----------------------|---------|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 電気使用量 | Kwh/年 | 181,074 | △0% | △0% | △0% |
| | kwh/処分量 | 1.29 | 1.23 | 1.17 | 1.12 |
| 軽油使用量(重機) | L/年 | 136,668 | △0% | △0% | △0% |
| | L/処分量 | 0.97 | 0.93 | 0.88 | 0.85 |
| 軽油使用量(車両) | L/年 | 156,626 | +15% | +15% | +15% |
| | L/収集量 | 3.55 | 4.08 | 4.08 | 4.08 |
| 温室効果ガス排出量 | kg/年 | 845,393 | +7% | +7% | +7% |
| 水使用量(総排水量) | m3/年 | 1,428 | +10% | +10% | +10% |
| | L/処分量 | 10.2 | 10.64 | 10.16 | 9.71 |
| 産業廃棄物の収集運搬量 | t/年 | 44,100 | 0% | 0% | 0% |
| 産業廃棄物の処分量 (リサイクル量) | t/年 | 140,630 | +5% | +10% | +15% |
| | | | 147,662 | 154,693 | 161,725 |
| 廃棄物最終処分量 | kg/処分量 | 0.50 | 0% | 0% | 0% |
| | | | 0.50 | 0.50 | 0.50 |
| グリーン購入(チェックシート管理) | 達成率 | 90 | 90 | 95 | 100 |

当社では、化学物質の使用はありません。

- (1) 環境負荷項目は、廃棄物の収集運搬量や工場の処分量に比例する割合が高い。従って日常は使用量で管理するが、活動評価は原単位での評価も併せて行う。
- (2) 今後中間処理量は増産基調のため、エネルギーは増加傾向にあるが、EA21活動の強化で増加を抑制し中期計画の基本は22年度横這いとする。ただ運搬用軽油は走行距離増のため、若干の増で設定する。
- (3) 温室効果ガス排出量には、営業車のガソリン使用量を含む。ただし、CO2排出量は全社両の1%程度のため、環境目標値は設定せず、実績値=目標値とする。
- (4) 当社における水の使用は、生活用水と発塵防止用の散水である。発塵防止用の散水が圧倒的に多い。プラント内の散水噴霧の設備を設置し、散水効率を図っている。
- (5) 当社業務に関する環境配慮として、産業廃棄物の収集運搬量及び中間処理量の拡大を目標とする。このため、地の利を生かして、営業圏の拡大を図る。
- (6) 中間処理量については量の拡大とともに分別強化による当社から排出する最終処分量の減少を図る。
- (7) グリーン購入は、対象品が多種類、かつ間欠的な購入のため、品物を定めての定量的な管理が困難である。このため、1年間の活動をチェックシートで評価する。

8.2 主な活動内容とその結果(平成24年度)

| 区分 | 項目 | 2012年度の環境活動の取組施策 | 評価 |
|------------|----------------|-------------------------|------------|
| 二酸化炭素の削減 | 軽油使用量の削減 | ① 車輛エコドライブ(アイドリングストップ) | ○ |
| | | ② 重機の効率的な使用(アイドリングストップ) | ○ |
| | | ③ 燃費管理データ収集 | ○ |
| | | ④ 定期点検の徹底 | ○ |
| | 電気使用量の削減 | ① 節電告知ラベル貼付 | ○ |
| | | ② エアコン省エネ設定運転 | ○ |
| | | ③ 不必要照明消灯(減灯) | ○ |
| 水資源 | 地下水使用量の削減 | ⑤ クールビズ・ウォームビズの展開 | ○ |
| | | ⑥ 節電製品・機器への切替 | ○ |
| | | ⑦ 高効率タイプ照明器具への切替 | ○ |
| | 地下水使用量の削減 | ① 適正散水実施 | ○ |
| | | ② 雨水利用 | ○ |
| | | ③ 洗車水、散水の節約 | ○ |
| | 廃棄物の削減 | 最終処分量の削減 | ① 手分別作業の改善 |
| ② 分別作業の標準化 | | | ○ |
| ③ 処分方法の見直し | | | ○ |
| リサイクルの拡大 | | ① 金属類の分別回収による資源化 | ○ |
| | | ② 廃プラスチックの分別回収による資源化 | ○ |
| | | ③ 木くずの分別回収による資源化 | ○ |
| | | ④ 廃油(エンジンオイル)のリサイクル | ○ |
| 一般廃棄物の削減 | ① 紙類の分別回収と適正処分 | ○ | |
| | ② 裏紙使用の推進 | ○ | |
| グリーン購入 | グリーン購入 | ① エコマーク文房具の購入拡大 | ○ |
| | | ② コピー用再生トナーの使用 | ○ |
| | | ③ 修理可能な製品の優先購入 | ○ |

(1) 過去3年間の活動実績推移

| 項目 | 単位 | 平成21年度 実績 | 平成22年度 実績 | 平成23年度 実績 | 平成24年度 実績 |
|---------------|-----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 温室効果ガス排出量 | Kg-CO ₂ /年 | 1,035,412 | 845,393 | 884,670 | 803,343 |
| 水使用量 | m ³ /年 | 1,809 | 1,428 | 1,463 | 1,376 |
| 産業廃棄物の収集運搬量 | t/年 | | 44,100 | 41,706 | 47,189 |
| 受託した産業廃棄物の処分量 | t/年 | 266,262 | 140,680 | 169,373 | 141,471 |
| リサイクル率 | % | 100.0 | 99.5 | 99.5 | 100.0 |

8.3 平成24年度の目標と実績

平成24年4月から平成25年3月迄の年間実績を下記にします。

| 項目 | 単位 | 中期目標値 | 実行目標値 | 実績値 | 達成率(%) |
|-----------------------|----------------|---------|---------|---------|--------|
| 電力使用量 | kwh/年 | 181,074 | 181,074 | 166,179 | 109 |
| | kwh/処分量 | 1.17 | 1.17 | 1.14 | 103 |
| 軽油使用量(重機) | L/年 | 136,668 | 136,668 | 113,050 | 121 |
| | L/処分量 | 0.88 | 0.88 | 0.80 | 110 |
| 軽油使用量(車両) | L/年 | 180,120 | 180,120 | 169,138 | 106 |
| | L/収集量 | 4.08 | 4.08 | 4.20 | 97 |
| 温室効果ガス排出量(注) | Kg-CO2/年 | 907,049 | 909,115 | 803,343 | 113 |
| 水資源投入量 | m ³ | 1,571 | 1,571 | 1,376 | 114 |
| | L/処分量 | 10.64 | 10.64 | 9.72 | 109 |
| 産業廃棄物の収集運搬量 | t/年 | 44,100 | 44,100 | 47,182 | 107 |
| 産業廃棄物の処分量 (リサイクル量) | t/年 | 154,693 | 154,693 | 141,471 | 91 |
| 廃棄物最終処分量 | Kg/処分量 | 0.50 | 0.50 | 0.00 | 100 |
| グリーン購入 | % | 90% | 90 | 90 | 100 |

注) 電力の二酸化炭素排出量算出は、排出係数0.378kg-co2/kwhを用いています。

温室効果ガス排出量は、ガソリン使用量は目標値=実績値として算定。(中期目標値と実行目標値の差はガソリン使用量差)

8.4 平成24年度環境活動の取組結果の分析

(1) サイト別管理について

本社分の環境負荷は、横浜工場の負荷に加えて一体として目標値及び実績値管理を実施している。環境負荷の少ないガソリン使用量、事務ゴミの排出量は実績値のみ管理している。

(2) 総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量

収集運搬用軽油使用量は遠距離運搬に伴う走行距離増(往きは空荷)の増加要因のため、収集量原単位では増加したが、エコドライブで何とか使用総量では目標値に収めた。

処理量は昨年の91%と減少したが、EA21活動にて処理量原単位は目標値内に抑制することが出来た。

エネルギー投入量の減少に比例して温室効果ガス排出量も減少した。今後、営業圏の拡大を検討しているので、車両の軽油使用は目標値の見直しも検討する。引き続き、エコドライブ、アイドリングストップの励行で取り組み、低炭素社会へ貢献していく。

(3) 水資源投入量

当社の水使用は、粉塵防止用散水と生活用水である。粉塵防止用の散水が圧倒的に多い。プラント内の散水噴霧の設備を設置し、散水効率を図っている。タイヤプール及び場内散水作業は、環境保全上必要な消費と考えている。引き続き、水資源の無駄使いをなくし、水使用量抑制を図る。

(4) 産業廃棄物の収集運搬、中間処理量

建設工事の減少に伴う建設廃棄物の減少が、収集量及び処理量ともに影響した。特に「鉦澤がら」の減少が処分量減少の大きな要因となった。

また、建設工事の減少のため、建設廃棄物よりの再生品の需要が大幅に落ち込み、在庫量の制約から積極的な営業展開が出来なかったことである。H25年度はまず再生品の販売に力を入れていく。

(5) 廃棄物総排出量

当社における廃棄物の排出は下記の通りである。

- ① 受け入れた産業廃棄物に混入している金属くず、木くず、プラスチックくず
 - ② 自社事業から出る廃油、 ③ 自社事業から出る一般廃棄物
- ①は手選場を設置して、選別を重視している。選別廃棄物は処理委託で100%リサイクル。
 ②は重機等のオイル交換等により発生した廃油で、油脂再生業者にて100%リサイクル。
 ③の主要ごみである紙くず削減のため、コピー用紙の削減を図っている。

8.5 次年度(平成25年度)の取組

| 項目 | 単位 | 基準年 (平成22年度) | 平成24年度 実績値 | 平成25年度 中期目標値 | 平成25年度 改訂目標値 |
|-----------------------|-------------------|-----------------|---------------|-----------------|-----------------|
| 電気使用量 | Kwh/年 | 181,074 | | △0% | △5% |
| | | | 166,179 | 181,074 | 172,020 |
| | kwh/処分量 | 1.29 | 1.17 | 1.17 | 1.21 |
| | 本社 | — | 実績値を調査する | | |
| 軽油使用量(重機) | L/年 | 136,668 | | △0 | △5% |
| | | | 113,050 | 136,668 | 129,835 |
| 軽油使用量(車両) | L/年 | 156,626 | | +15% | +10% |
| | | | 169,138 | 180,120 | 172,289 |
| ガソリン使用量(車両) | L/収集量 | 3.55 | 3.58 | 4.08 | 3.55 |
| | L/年 | — | | | +10% |
| | | | 4,010 | — | 4,500 |
| 温室効果ガス排出量 | kg/年 | 845,393 | | +7% | +3% |
| | | | 803,343 | 907,049 | 868,347 |
| 水使用量(総排水量) | m ³ /年 | 1,428 | | +10% | +0% |
| | | | 1,376 | 1,571 | 1,400 |
| | L/処分量 | 10.2 | 9.7 | 10.16 | 9.86 |
| | 本社 | — | チェックシートで定性管理 | | |
| 自社廃棄物の削減 | kg/年 | — | 基準値 | | +0% |
| | | | | 1,440 | 1,440 |
| 産業廃棄物の収集運搬量 | t/年 | 44,100 | | 0% | +10% |
| | | | | 47,189 | 44,100 |
| 産業廃棄物の処分量 (リサイクル量) | t/年 | 140,630 | | +10% | +0% |
| | | | | 141,471 | 154,693 |
| グリーン購入 | % | 90% | 90 | 90 | 100 |

注) 電力の二酸化炭素排出量算出は、排出係数0.378kg-co₂/kwhを用いる。

[平成25年度取組の基本方針]

- ① 24年度実績値を元に、第2次中期の25年度環境目標値の見直しを行う。
- ② H25年2月本社(連絡先)を横浜工場内から工場近郊に移設した。これに伴い横浜工場に包括されていた本社関連の電力使用量は、新たに実績値を調査し26年度より目標値を設定する。水道使用量は家賃に含まれるのでチェックシートで節水活動を評価する。
- ③ ガソリン使用量は、環境負荷量が小さいため実績値のみ管理していたが、一層の負荷低減のためH25年度より、新たに目標値を設定して活動する。
- ④ 収集運搬用軽油使用量は、走行距離増が今年も予想されるので、H24年度実績の10%増とした。全ダンプ車にドライブレコーダーを設置したので、H25年度より燃費管理、最適走行ルートの指示を徹底し、軽油使用量の一層の削減を推進する。(次頁参照)
- ⑤ 粉塵防止用散水は、処分量増に伴う使用量増は散水方法の工夫で最小限としたい。
- ⑥ 自社排出一般廃棄物もH25年度より目標値を設定して、排出量削減に努力する。
- ⑦ グリーン購入は可能な限り再生品の使用を心掛ける。

10. 社長による総合評価と全体の見直し

実施日：平成25年5月14日

| 報告項目 | 管理責任者からの報告内容 | 結果 |
|--------------|--|----|
| 環境経営システム構築 | EA21推進体制を、職務組織の実態に合わせて改訂した。特にドライブレコーダー設置に伴う収集運搬GRの位置づけを明確にした。 | ○ |
| 環境目標 | 今年度は品質強化も加味して目標に取り組んだ。安全品質面を強化した結果、燃費が増加傾向となったが、その他は目標値をクリアーすることが出来た。来年度は実績を元に目標値の見直しを実施したい。 | ○ |
| 環境関連法規制 | 環境法規制登録一覧表の様式を一新し、該当条文名と順守内容を明確にし、遵守体制を整備した。廃棄物処理法、自動車関連等の順守評価を中心に実施し、結果は満足した内容である。 | ○ |
| 外部から苦情・要望 | 環境に関わる苦情・要望等ない。 | ○ |
| 緊急事態の想定及び訓練 | H24年12月14日工場火災を想定した訓練を実施。対応手順書の改訂は必要ないが、周知を図る必要がある。 | ○ |
| 前回の指示事項の是正状況 | 前年度の指示事項「EA21の更なる活性化のため、運用方法の見直しを図ること」は、ダンプ車へのドライブレコーダー設置、横浜工場内の5S活動等を実施した。本社移転(連絡先)もあり、H25年度は本社の環境負荷調査が必要になる。 | △ |
| 社長からの指示 | <p>① 今年度は品質強化も加味して目標に取り組んだ結果、全員の努力と協力で良好な成果が出たことを感謝する。</p> <p>② 工場運営方法や工場内作業方法の見直しが、品質や環境に効果的であることが分った。24年度は環境目標値は、これらの活動実績を加味して見直しを行うこと。</p> <p>③ ドライブレコーダーをうまく活用し、軽油の燃費改善はもとより、安全運転、自社車両の稼働率向上を目指していただきたい。</p> | |

変更の必要性の有無

| | |
|-----------|---------------------------------|
| ①環境方針 | 特に変更する必要性はない。 |
| ②環境目標 | 第2次中期計画を基本に24年度実績を加味して見直しを行うこと。 |
| ③環境活動計画 | 本社の移転に伴い、本社関連の環境負荷を調査すること。 |
| ④環境経営システム | 変更の必要なし |

11. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

関連法規の順守状況は、平成25年3月順法性をチェックした結果、法律違反がない事を確認しました。また、過去においても、過去3年間、本活動期間においても関係当局から法律違反の指摘及び指導を受けたことも提訴を受けたこともありません。

当社に關係する環境関連法規は、下記の通りです

- 廃棄物処理法
- 騒音規制法、振動規制法
- 下水道法
- フロン回収破壊法
- 神奈川県環境保全条例
- 自動車NOX・PM法
- オフロード法
- 自動車車両法
- 道路交通法
- 横浜市環境保全条例